



平成27年7月

第23号



丹後峰山の
こんぴらさん

今は昔のこんぴらさん

写真は昭和三十一年四月十日の春季大祭当日に詣でる人波の様子です。手前の木立が当社で祭礼大幟と石燈籠が見えます。昭和の丹後の繁栄ぶりを象徴するかの様な風景で、露店が軒を連ねる本通りは参拝の人々で埋め尽くされています。当時の丹後の人々にとって春夏のこんぴら参りは年中行事の一つで、他には然したる楽しみのない慎ましい暮らしの中で心待ちにする晴れの日でした。町内の家庭では親類縁者を招き、祭り御馳走といわれた料理が振る舞われました。大祭当日にはご神威を授かるうと一同総出で参拝しました。その際何よりの楽しみが露店です。本通りから境内参道までびっしり軒を連ね、石段の途中や本殿裏にまで並び、香具師がいかかわしい菓などを口上宜しく売り、「ロクロ首の娘」「河童のお化け」などの見世物小屋があり、広場にはサーカスの興行まで来ていました。写真を見るだけで当時の熱気が伝わり、お祭り気分になりそうです。

おとなも
こどもも
たのしい
丹後親子で楽しむ
こども論語塾



『論語』の言葉は
一生の心の宝物。

『論語』にはこどもに伝えたい
大切なことが詰まっています。



「墨平仲は、善く人と交わる。久しくして之を敬す。」
墨平仲
善く人と交わる。
久しくして之を敬す。

★お参りと清掃奉仕の後
お茶とお菓子をいただきます。
☆青木順子先生の論語の
お勉強があります。
大きな声で「素読」して
楽しく学びます。

日時 8月2日 9月27日 12月6日
午前9時30分～
2ヶ月に1度日曜日に開催
参加料 子ども300円 大人500円
講師 青木順子(あおきよりこ)先生
とやま論語を楽しむ会 代表



こんぴらさんの
神輿をかつぎませんか
神輿輿丁(かつぎ奉仕者)
山車屋台曳き手など祭礼参加者を
募集しています
小象山神輿会



www.konte1.com
こんぴら
手づくり市

第3日曜日
10:00~15:00頃

7月19日と
8月16日は
夕涼み市
16:30~20:00

厳肅で清楚な
結婚式 御祈祷
金刀比羅神社
宮司 脇阪卓爾
〒657-0000
京丹後市峰山町泉一六五二
電話 0772-21-2102
FAX 0772-21-2593
mail info@konpirasan.com
http://www.konpirasan.com

七月二十九日
水無月祭
「茅の輪くぐり」二十八日より
「人形」受付・祓所参拝
午後六時より九時まで
「夜の市」開催
水無月会奉仕
水無月会



七月九日(木)午後八時
金刀比羅神社夏季大祭
峰山花火大会
主催 金刀比羅神社夏季大祭
花火実行委員会
雨天の場合は、七月二十九日の水無月祭で実施します

峰山駅開通と山車屋台有終の姿

大正十四年峰山駅が完成し峰山線が開通した際には、町を挙げて大変盛大な祝賀行事が行われました。当社例祭神輿渡御も十月十日の日程を変更し開通式典に合わせて十一月四日に行われ、神輿とともに町内の屋台が総出動しています。

十一月三日開通当日には新築駅舎の前に大テントを張り、千五百名が参列する中開通式典と祝宴が営まれ、新地の芸妓衆五十名が新作の踊りを披露するなどし、翌日には神輿山車屋台の総巡行をはじめ芸妓衆の披露や青年団による仮装行列などが賑々しく行われています。

当時の京都日日新聞の記事には、「峰山町では朝早くから煙火を打ち揚げ町民は業を休み各戸に満幕や紅提灯を吊し又各区内から十数台の屋台を曳き出し名賓共に歓喜の頂上に達し道行く人も萬歳を歓呼しつつ踊り廻り此日の人出二萬餘名と称され真に同地方に於ける未曾有の大賑ひを呈した。」と紹介されています。

が日程を変えて巡行したことは驚きですが、当時の祭礼は行政も町民も神社も一体で行われていたもので、それぞれの立場を超えた盛大な行事を行うことができましたのです。

祭礼に出動した山車は、吉原の太刀振、不断の神楽、泉富貴屋の上室白銀御旅織元の山屋台七基、杉谷浪花呉服塚の芸屋台四基で計十三の町が参加したと記録に残っていますが、この一年半後に起きた北丹後大地震により二基を遺して失われてしまいました。

この峰山駅開通祝賀行事が記録映画として遺されています。九十年も前のものなので上映することはできませんが、フィルムからスナップ写真も残されています。

山上絵馬舎に掲げる祭礼図（題字の背景図）と同規模の総巡行が最後に執行された様子が動画で収められているのです。失われた屋台の動く姿を見てもたいものです。



開通記念式典 祝宴会場

峰山駅へ到着する汽車

新築の峰山駅舎



吉原の太刀振 幟には京極家の紋

御旅の三輪山

神社神輿の渡御



青年団の仮装行列

当時の人々の様子

新地の芸妓衆 新作「峰山節」の総踊りを披露



昭和30年代 春季大祭当日の様子



大正と昭和の峰山

昭和三十年代、丹後はちりめん産業の好景気に沸き、人々は高いや買ひ物に中心街の峰山を目差して集まりました。今では想像もできない光景ですが、いつかまたこんな賑わいを取り戻す日は訪れるのでしょうか。

左下写真と表紙写真を比べると震災前の大正期と後の昭和の町並み風景の対比ができます。震災で全て無くなった町が復興を果たし、大きく栄えるまでになりました。



昭和36年 御鎮座150年祭に沸く町内



大正時代の浪花 本通り北向



大正時代に撮られた震災前の峰山町

金刀比羅神社 役員名簿 敬称略	
責任役員	井上 敏 (代表総代)
総代	錦織 隆 稲葉悦男 (総代兼任) 中山 力 (総代兼任) 松本研二 (総代兼任) 西垣徳彦 松崎 修 井上五朗 森 原邦夫 吉村孝道 寺田厚生 安田清志 山本英雄 岸田利道
顧問	神社委員
会長	稲葉悦男
副会長	松本研二 西垣徳彦
監事	藤原邦夫 井上五朗 横井邦夫
地区評議員	指名評議員
元町区	川島三次 山下重雄
一区	阿武克宜 岡崎一芳 金安義孝
二区	和田三郎 池田芳昭 吉岡博泰
三区	吉田國隆 安田清志
四区	赤岩 淳 吉見英次
五区	木崎祥緒 田中啓一 西木邦夫
六区	金田敬三 横井邦夫
七区	尾早敏明 山本英雄 荻野正二 由利敏雄
八区	高橋岩夫 木村成信
九区	寺田義明 平井 猛 中西実
十区	粟倉惣之輔 赤岩康利 中川芳隆 三木邦彦
十一区	依 公喜 木下謙太郎 奥田晋也
十二区	増田和久 小西哲夫 今田守
十三区	赤井鐵昭 松本鐘三郎
十四区	沖 一 小野甚一 中村健之 岸田利道 中井 望
十五区	吉田件昨 岸村 進
十六区	植垣齋紀 岸田利道 廣野勇夫 由良隆彦
十七区	桑山敏博 岸本博一
十八区	谷川朋彦 矢谷平夫 真岡修治